

様式第2号（第8条・第9条関係）

令和 2年 3月12日

白老町議会
議長 松田 謙吾 様

白老町議会議員 長谷川 かおり 印

派遣結果報告書

日時（期間）	自 令和 2年 2月19日（水） 至 令和 2年 2月21日（金） （2泊3日）
目的地	静岡県御殿場市 ①御殿場市教育委員会 ②時の栖 群馬県川場村 ①道の駅川場田園プラザ
調査事項	・スポーツ振興とスポーツツーリズムによるまちづくり ・交流施設による地域活性化
視察の成果 （具体的に）	別紙参照

※ 必要の都度、写真その他を添付すること。

●静岡県御殿場市印野 「富士山 樹空の森」 (富士山交流センター)

【概要】

市内に自衛隊演習場が4カ所あり有名な東富士演習場を擁している。防衛省より「防衛施設周辺まちづくり計画補助金交付金計画」を受け「防衛施設の存在を活用した地域振興計画など防衛施設を前提とした街づくりの為の総合的な計画」を策定する事業に対し、計画に位置付けられた施設整備に対し75%の補助金交付の方針を受け。演習場周辺地域の振興の為、市民の声を聴取。富士山に対する知識を養い、理解を深めるとともに富士山ろくの自然環境を活用して健康増進を図り、交流人口の増加及び地域の活性化に資する為、平成23年に施設共用を開始した。

- ・敷地面積 105,776 m²
 - ・建築物 ビジターセンター
 - ・建築面積 2,077.64 m² 延床面積 2,725.11 m²
 - ・屋内施設：富士山交流センター内は富士山に関する常設展示室、企画展示室、交流ホール、レストランなどがあり富士山に関する歴史や関わった人物を学ぶことが出来る。地域交流スペースでは地元農家の生産する農産物や地場産品、御殿場オリジナル商品自衛隊関連商品など販売。
 - ・屋外施設：交流の森・広場があり年間3,000tの雨が降る地域の対策として子供たちの遠足時の雨除けやイベント開催対策の為に鉄筋コンクリート造延床面積1,286.6 m²のドーム型施設が設置されている。
- 陸上自衛隊輸送用ヘリコプターが展示されており地域住民と自衛隊との交流を図るために必要な施設と位置付けられていることを認識した。
- ・運営：指定管理制

【利用状況】

- ・地理的に神奈川寄りの立地。平日はパークゴルフ、温泉等を目的に市外から来訪。休日は東京方面からも集客あり。市民よりも他市からの来場者が多い傾向となっている。
- ・一人でも多くの方に利用していただくためにレストランなどの利用料金は低価格設定
- ・年間30万人利用されているが今年は猛暑、台風などで集客が減っている。

●御殿場市 産業スポーツ部

御殿場市の概要

御殿場市は霊峰富士と箱根山系の間に位置し、豊かな自然と箱根系の間に位

置し豊かな自然に恵まれた高原都市である。東京から 100 キロの距離にあり、東京、横浜の通勤圏内にもなっている。また、富士演習場をはじめ自衛隊の演習場が市域の 1/3 存在し、防衛補助を財源とした地域スポーツ施設整備が進んでいる。

スポーツツーリズムの取り組みについて

【目的】

御殿場市では恵まれた環境を生かし観光客の滞留促進を目指す『御殿場市観光ハブ都市づくり推進構想』の推進プロジェクトの一環でスポーツツーリズムに取り組み「スポーツによる観光町づくりの推進」として位置付けている。

御殿場市には多くのゴルフ場、馬術のナショナルトレーニングセンターやスポーツのハード資源があり、また、夏の涼しい気候や富士山といった自然環境にも恵まれている。また、東京オリンピック、パラリンピックのスポーツイベントを控え関係者、観戦者の誘客を行うとともに今ある資源を活かしたゴルフ、アウトドアスポーツほかの体験型観光等スポーツを核とした地域振興、観光需要の掘り起こしを目指している。

スポーツツーリズム推進体制

平成 23 年からスポーツツーリズム育成支援事業として当時の文化スポーツ課（スポーツ振興担当）で取り組みをスタート。スポーツ合宿誘致のみならず、市固有の自然環境やスポーツ環境を活かした取り組みを進めていた。平成 29 年から商工、観光、農林分野を含めた「産業スポーツ部」を新設し、さらにスポーツツーリズムに力を取り入れて取り組むための「スポーツ交流課」を新設。東京 2020 オリンピックの自転車競技ロードレースが市域をコースすることが決まり「東京オリンピック、パラリンピック課」が新設され、同課内でスポーツツーリズム推進の取り組みも狙い市民スポーツ振興やスポーツ等の担当として「市民スポーツ課」が設置され両輪で市のスポーツ行政を担っている。

【質疑応答】

Q：スポーツツーリズム促進取り組みに対する市民への働きかけ、浸透、理解度は？

A：・2002 年日韓ワールドカップのキャンプ成立は民間団体「時の栖」が大きな力となった。サッカーを通し市に貢献。
・自転車では熱心に取り組んでいる市民が NPO 設立し、市が主催のイベントにはボランティアとして協力。運営人員の確保など大変なところを手伝ってくれる。

・大きな大会があると市民が施設を使えなくなる弊害はあるが他市からスポーツをしに来てくれるのは嬉しい。と声も上がっている。市民からスポーツツーリズム推進する声は上がっており浸透や理解は進んでいると考えている。

Q：経済効果は？

A：平成 30 年度の観光交流人数 15,222,608 人。前年度比 99.92% 御殿場市には年間 1 千万人利用するアウトレットもあり地の利を生かし、地域にどれだけ勧誘するか。箱根、富士五湖来訪者を素通りさせないためにスポーツツーリズムに対する取り組みを民間と協働で進めている。

●御殿場高原時の栖 サッカーグラウンド、スポーツ合宿関連施設視察

・平成 7 年御殿場高原ホテル、時の栖をオープン後美術館やサッカー場、宿泊棟などの設備増強を行いサッカー合宿場として知名度が高まる。

・海外チーム、国内強豪校が集って合宿することで練習試合が組みやすい。遠征する時間や経費が節約できている。

・田園地帯だった周辺地域も住宅街となり小学校が新設されるまでに活性化される。

●道の駅川場田園プラザ（群馬県利根郡川場村）

川場村概要

・群馬県北部地域の中心地。

・総面積 85.29 k m² の内 88% が森林で占められ、耕作地は僅か。7% 自然豊かな農産地。

・人口：平成 22 年国勢調査で 3,898 人 平成 25 年住民基本台帳の高齢化率 28.2%

・道の駅を作ろうとした背景

裕福ではなかったが稲作や養蚕で食べるのには困らない生活を送っていた村民。第 1 次オイルショック後都市部へ人口が流出し過疎化が始まる。昭和 46 年過疎指定。村を立て直すために、32 歳の村長が誕生。

◎「農業プラス観光」の地域づくり始まる。

鉄道のない村に S L を運び込みホテルに改修。インフラ整備を行う。交流人口の増加で農家所得の向上図る。スキー場、温泉、尾瀬国立公園近場にあり。1982 年新幹線の開通、1985 年関越自動車道の開通で首都圏からの交通が飛躍的改善。

◎都市交流事業：世田谷区と「区民健康村相互協定」締結

35年前から小学5年生が2泊3日の宿泊研修を行い、農業体験など自然と触れ合い世代を超えての交流が続いている。

*山に囲まれた閉鎖的な場であったが、世田谷の人々から綺麗な山、田んぼ、水を維持することの大切さを教えてもらい、美しい村づくりの為に景観、環境を維持している。

田園プラザ事業（赤字からの立て直し策）

平成8年に道の駅登録。「関東好きな道の駅」5年連続第1位（2004～2008）年々順調に入込客を伸ばすが売り上げ伸びず、2007年赤字に転落。事業立て直しを依頼された現社長。

・職員の意識改革に取り組み、「働く人のモチベーションが好循環を生む」をモットーに全職員がディズニーランドで視察研修を行うことで接客クオリティの向上につながった。

・オンリーワンへのこだわり商品と高級志向で年間190万人、

・リピーター70%

・一見さん30%

・就業の場の拡大・農産物の販路拡大

・お年寄りや企業等退職者、専業、パート主婦等菜園づくりで「新しい所得と生きがい」が生まれた。地域貢献につながる。

視察を通して

民間活力を生かしスポーツツーリズムを推進している御殿場市は、観光交流客数が年々増え確実に経済効果を生んでいる。川場田園プラザも「農業プラス観光」を掲げ地域の自然を守り農業に関わることで地元住民一人一人が潤い生きがいにつながっている。

白老町はスポーツ施設も老朽化し整備が必要な状況である。しかし、千歳空港へのアクセスの良さ、海と山に囲まれた自然環境、温泉地活用等、地の利を生かした街づくりの為に民間の力をかりてスポーツツーリズム実現に向けて動き出すことはできないのだろうか考える。